

1 目的

災害医療、災害看護に関する基礎的知識と技術を身につける。また、グローバルヘルスの課題を学び、国際的な視点で看護を捉えることができる能力を養う。

2 目標

- 1) 災害看護の特殊性と災害発生時の対応について理解する。
- 2) 災害サイクル各期に必要な災害看護の基礎的知識・技術を習得する。
- 3) 諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解する。
- 4) 国際協力のしくみを理解し、国際看護の必要性について考える。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 3 年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	災害医療の実際 災害の種類と健康被害、災害医療の特徴と DMAT の活動の実際	講義 (医師)
2	災害とは何か：災害看護の定義・種類 徳島の災害、災害対策 災害看護の展開①もし、学校が避難所になったら	講義・GW
3	災害看護の基礎知識 災害看護と法律、災害に関する制度、情報伝達	講義
4	災害看護の展開②その時 看護師は何かができる 災害による被害と疾患の特徴・災害サイクル各期の看護ケア	講義
5	災害看護の展開③被災者のこころのケア	講義
6	被災者特性に応じた災害看護 災害時の要配慮者対策・障害種別の特性に応じた防災対策	講義
7	災害看護に必要な技術	講義
8	災害看護に必要な技術 (一次救命処置、包帯法、搬送法等)	演習
9		
10		
11	災害訓練の実際 (病院での災害訓練に参加)	訓練
12		
13	国際協力機関での活動をとおしての看護活動	部外講師
14	文化を考慮した看護について考える	
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加する。
- 2) 演習・訓練時には指定のあった服装および準備をして臨む。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 第5版 医学書院

看護過程の基礎

作田 久美

1 目的

看護記録の意義と目的・看護過程の展開の基本を理解し、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程のプロセスと看護診断が理解できる能力を養う。

2 目標

- 1) 看護過程の構成要素を理解する。
- 2) 看護過程の5段階の概念と活用方法を理解し、具体的展開方法を理解する。
- 3) 看護過程の思考技術の基本を理解する。
- 4) ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程のプロセスを理解する。
- 5) 看護診断・看護計画立案ができる。
- 6) 実施・評価の記録方法が理解する。

3 単位数・時間数・時期

1単位・30時間 1年次

4 授業計画

回	内容	授業形態
1	看護過程とは、看護過程を展開する際に基盤となる考え方	講義
2	看護過程を理解・活用するために必要なスキル	講義
3	看護記録の必要性と管理・報告の必要性	講義
4	看護過程の展開① アセスメントの基礎知識	講義・演習
5	看護過程の展開② アセスメントの具体的な進め方	講義・演習
6	看護過程の展開③ 看護診断	講義・演習
7		
8	看護過程の展開④ 看護計画	講義・演習
9	・計画の3つの種類・優先度の決定・問題リストの作成・成果の設定	
10	看護過程の展開⑤ 実施・評価	講義・演習
11	紙上事例演習 ○アセスメント ○看護診断 ○看護計画	講義・演習
12		
13		
14		
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加する。
- 2) グループワークに積極的に参加する。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術〔2〕基礎看護技術Ⅰ、医学書院
- 2) 事例で学ぶ看護過程 PART1、学研
- 3) ゴードンの機能の機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーヴェルヒロカワ
- 4) NANDA-I看護診断 定義と分類 2021-2023、医学書院
- 5) エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図、中央法規

看護研究の基礎

作田 久美

1 目的

看護研究の意義、方法論を理解し、看護研究に必要な基礎的知識を学ぶ

2 目標

- 1) 看護研究の意義について理解する。
- 2) 看護研究のプロセスを理解する。
- 3) 研究計画書を作成する。
- 4) 看護研究に関わる倫理的問題を理解する。
- 5) 研究結果を看護実践に活用する必要性が理解できる。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 2 年次

4 授業計画

回数	学習内容	授業形態	
1	看護研究とは何か	看護研究とは	講義・課題
2	看護研究のプロセス	看護研究の意義 リサーチクエストの重要性 研究のプロセス	講義・演習
3	研究方法	研究計画書とは 研究者に求められる倫理と倫理的配慮	講義
4	文献検索	文献検索方法について	講義・演習
5	論文クリティーク	論文クリティークとは データ収集方法①	講義
6	研究論文作成	データ収集方法② データ分析方法 研究論文の種類	講義
7	研究発表の方法	原著論文の構成要素 論文作成のポイント	講義
8	中間試験	試験終了後、看護研究の進め方説明	試験・講義
9	看護研究計画書作成	グループで研究計画書を作成、資料作り	グループ学習
10	看護研究	計画書をグループで発表	発表会
11	計画書発表会	発表会を、学生主体で運営	
12	看護研究論文作成	ケーススタディとは	講義 演習 (個人ワーク)
13		個人で事例研究 (ケーススタディ) 作成	
14			
15	科目最終試験		試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。
- 2) グループワークに積極的に参加する。
- 3) 課題の提出期限を守る。

7 テキスト

- 1) 松本孚、森田夏実：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社
- 2) 看護研究 [系統看護学講座 別巻] 医学書院

1 目的

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における健康増進のための具体的な看護の方法を知り、看護技術の基本を身につける。

2 目標

- 1) 自然の営みとしての妊娠・出産を知る。
- 2) 妊婦・産婦・褥婦および、新生児のケアの基本を理解する。
- 3) 妊婦・産婦・褥婦および、新生児の基本的なケア技術が習得できる。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 2 年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	妊娠初期におけるケア	講義
2	妊娠中期におけるケア	講義
3	妊娠中期におけるケア	講義
4	妊娠後期におけるケア	講義
5	事例を考える (妊娠期)	講義・グループワーク
6	分娩期のケア①生理的現象	講義
7	分娩期のケア②産婦の心理	講義
8	事例を考える (分娩期)	講義・グループワーク
9	褥婦のケア①生理的現象	講義
10	褥婦のケア②褥婦に必要な育児技術	講義
11	新生児のケア①生理的現象	講義
12	新生児のケア②育児技術と成長発達	講義
13	沐浴, レポート触診法	校内演習
14	腹囲・子宮底の計測	
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業参加態度及びレポート、沐浴演習参加態度、筆記試験

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。
- 2) 常に臨床の場面をイメージしながら主体的に課題学習に取り組むこと。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院)
- 2) カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術 (医歯薬出版)
- 3) 写真でわかる母性看護技術 アドバンス (インターゲイ)

1 目的

地域・在宅で療養する家族の健康課題によって生じるニーズを支援するための、基礎的知識及び家族看護の役割を理解する。

2 目標

- 1) 地域・在宅で暮らす家族のニーズの特徴を理解する。
- 2) 家族のニーズをアセスメントする上で、必要な基本的な知識について理解する。
- 3) 家族の健康課題によって生じるニーズについてのアセスメントの実際をとおして、家族看護の重要性を理解する。

3 単位数・時間数・時期

1単位・15時間 2年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	ケアチームにおける多職種連携	講義 (医療ソーシャルワーカー)
2	家族看護の目的と対象者 社会の変化と地域における家族看護のニーズ	講義
3	家族アセスメントに有用な理論とアセスメントモデル① (ICF)	講義 グループワーク
4	家族アセスメントに有用な理論とアセスメントモデル① (家族アセスメント理論、家族アセスメントモデル)	講義 グループワーク
5	家族関係、家族と家族外関係を把握する方法 (ジェノグラムとエコマップ)	講義 グループワーク
6	家族看護の特徴と実際①事例検討	グループワーク
7	家族看護の特徴と実際②事例検討	グループワーク
8	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加する。
- 2) 演習時には指定のあった服装および準備をして臨む。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院
- 2) 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院
- 3) 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院

在宅療養を支える技術

久次米 陽子

1 目的

地域・在宅で療養する対象者の多様な暮らしを踏まえ、日常生活援助技術及び医療処置を伴う援助技術の特徴及び看護師の役割についての基礎的知識を理解する。

2 目標

- 1) 在宅看護技術の特徴及び、在宅看護技術の実践に必要な能力について理解する。
- 2) 在宅における日常生活援助技術の基本的な知識について理解する。
- 3) 在宅における医療処置を伴う援助技術の基本的な知識について理解する。
- 4) 在宅看護技術の体験をとおして、在宅療養における在宅看護技術の重要性を理解する。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 2 年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	訪問における倫理とマナー 在宅看護における医行為	講義
2	在宅におけるヘルスアセスメント	講義
3	在宅医療技術（服薬管理・疼痛管理）	講義
4	福祉機器の実際	部外講師
5	住宅改修とユニバーサルデザイン	部外講師
6	衣生活に関する在宅看護技術	グループワーク
7	清潔に関する在宅看護技術	グループワーク
8	日常生活援助演習（洗髪の援助）	演習
9	ニーズの検討と自助具の作成計画立案	グループワーク
10	自助具の作成と改善	グループワーク
11	事例検討と自助具の発表（グループワーク発表会）	発表会
12	在宅 CAPD 療法の管理	講義
13	在宅酸素療法の管理	部外講師
14	褥瘡管理・基本的な創傷管理とスキンケア	講義（皮膚・排泄 ケア認定看護師）
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加する。
- 2) 演習時には指定のあった服装および準備をして臨む。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院
- 2) 根拠がわかる在宅看護技術 メヂカルフレンド社
- 3) 写真でわかる訪問看護 アドバンスシリーズ インターメディカ

1 目的

成人の急性期にある対象の特徴を学び、生命の危機状態にある対象への看護や対象の疾患に応じた看護を学び、看護実践に活かす知識を養う。

2 目標

- 1) 成人急性期にある患者の特徴及びその家族に対する看護を学ぶ。
- 2) 生命の危機状態にある対象への看護や対象の疾患に応じた看護を学ぶ。
- 3) 主要症状の観察と技術援助を理解し基本的な技術を習得する。
- 4) 疾患の理解に結びつくよう主体的に学習し取り組み知識を習得する。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 2 年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	急性期について	講義
2	周術期について	講義
3	消化器について	講義
4	消化器症状の特徴と看護	講義
5	胃がん患者の看護	講義
6	大腸がん患者の看護	講義
7	ストーマ造設術患者の看護	講義
8	循環器について	講義
9	循環器症状の特徴と看護	講義
10	急性冠症候群の患者の看護	講義
11	心不全患者の看護	講義
12	貧血患者の看護	講義
13	白血病患者の看護	講義
14	急性期のまとめ	講義
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

最終筆記試験、授業への出席・参加姿勢、自己学習を踏まえて総合的に評価する。

6 テキスト

- 1) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)
- 2) 系統看護学講座 成人看護学 [1] 総論 (医学書院)
- 3) 系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院)
- 4) 系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 (医学書院)
- 5) 系統看護学講座 解剖生理学 (医学書院)
- 6) 系統看護学講座 病理学 (医学書院)

診療の補助技術

佐藤 優子

1 目的

病原体の人体への侵入を防ぎ、看護師が実践する診療の補助に伴う基本的な技術について安全・安楽に実践できる能力を養う。

2 目標

- 1) 感染予防の意義・目的・方法を理解できる。
- 2) 薬物療法の原則と留意事項を正確に理解できる。
- 3) 創傷管理の基礎知識を理解できる。
- 4) 治療・検査時の対象心理、看護の役割を理解できる。
- 5) 採血法を理解でき、モデル人形を使用して安全に採血できる。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30時間 1 年次前期～後期

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	標準予防策と感染経路別予防策	講義
2	手指衛生・無菌操作について	講義
3	消毒・滅菌について	講義
4	感染性廃棄物の取り扱い、針刺し事故防止策について	講義
5	無菌操作・ガウンテクニック法・手指衛生 滅菌手袋装着	演習
6	与薬の基礎知識 (薬剤の種類と取り扱い、与薬における看護師の役割)	講義
7	与薬方法と効果の観察	講義
8	中心静脈カテーテル留置の介助 輸血管理・カテーテル関連血流感染対策	講義
9	皮下注射・筋肉内注射の実際	演習
10	静脈内注射の実際	演習
11	診察・検査時の看護師の役割、対象心理	講義
12	創傷の治癒過程・アセスメント、包帯法	講義
13	静脈血採血法について	講義
14	静脈血採血法の実際	演習
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 事前課題に取り組み、主体的に演習に参加すること。
- 2) どの技術項目も正確さを要求されるため、未熟な技術は事故につながる恐れがあることを留意し、演習に臨むこと。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
- 2) 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス (インターメディカ)

1 目的

精神看護に必要な技術、活用できる理論について理解するとともに、患者-看護師関係を築くために自己への洞察を深め、治療的コミュニケーションの基本的能力を養う。

2 目標

- 1) 患者-看護師関係について学び、治療的関わりの技法について習得できる。
- 2) 精神看護に活用できる看護モデル・看護理論を学ぶ。

3 単位数・時間数・時期

1単位・30時間 2年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	精神の健康について考えたこと①	講義・グループワーク
2	精神の健康について考えたこと②	講義
3	精神看護について (DVD 鑑賞)	映画鑑賞
4		
5	関係のなかの人間 家族システム	講義
6	ストレンクスモデル、リカバリーなど	講義
7	対人関係論 (ペプロウ)	講義
8	患者-看護師関係 (トラベルビー)	講義
9	セルフケア理論 (オレム)	講義
10	発達理論と発達危機 (エリクソン) ①	講義・グループワーク
11	発達理論と発達危機 (エリクソン) ②	グループワーク発表
12	対象関係論 その他の理論	講義
13	精神看護学領域における看護過程①	講義・演習
14	精神看護学領域における看護過程②	講義・演習
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題の提出状況および科目最終試験を踏まえて総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。
- 2) 常に臨床の場面をイメージしながら主体的に課題学習に取り組むこと。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)